

平成 23 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：Cerenkov Telescope Array 計画準備研究
英文：Preparatory Study for Cerenkov Telescope Array Project

研究代表者 戸谷友則（京都大学）
参加研究者 CTA-Japan consortium

研究成果概要

CTA のコンセプトを広く一般社会に説明するための見開き 2 ページ程度の日本語パンフレットを作成し、各方面に配布した。そのための印刷費用を本研究費から出させて頂いた。CTA Japan consortium meeting を平成 23 年秋に行い、盛会であった。コラボレーションメンバー以外の参加も多く、CTA への期待を感じさせた。サイエンスの検討と共に、CTA 全体の中で日本グループがどう貢献していくか、戦略が練られた。本研究費より、この研究会への旅費補助を行った。

理論面では、GRB, AGN を中心にすえ、その研究目的、研究ターゲットを明確化した。これらの議論の中心には、常に CTA Japan が位置していた。我々は、23m 大口径望遠鏡により、高感度化とともに、エネルギー閾値を 10-20GeV まで下げ、ガンマ線による観測できる宇宙、現象を拡大するという方向に推進してきたといえる。

ハードウェアの開発に関しては、アレイの中心に位置する 23m 大口径望遠鏡 (CTA-LST) に集中し、そのカメラ、読み出し回路開発、分割鏡開発を大幅に前進させた。

詳細は、CTA-Japan の他の項目の共同利用報告も参照されたい。

整理番号